

はなむけの言葉

—— 担任より

永遠の絆

教授 田中憲一(国2-1)

卒業おめでとうございます。短大生活はいかがでしたか？卒業後は、各自の選んだ道を、幸せを求めて、誇り高く歩んでいってください。けれど、これで本学との絆が切れるわけではないのです。一生精神的紐帯のような関係が続くのです。ですから、母校を思い出したら、またこの学園に足を向けてください。いつでもお待ちいたしております。ではさようなら。お元気で。

辞書を座右に

教授 南芳公(国2-1)

敷島ややまと言葉の海にして拾ひし玉はみがかれにけり(続古今集・巻第二十二・賀歌)この歌は、大槻文彦がその著『言海』で引いたものです。妻子に先立たれながらも刻苦して初めて近代的な国語辞書を独力完成させた生涯は、高田宏『言葉の海へ』でも知られています。多くの先人の苦心のもとに、今ある国語辞典。

その一冊を常に座右に置き、言葉を大切にする社会人になって下さい。では、お元気で。

必要とされる役割

准教授 小川浩子(家2-1)

今、眩しいほどに輝いている皆さん。ご卒業おめでとうございます。それぞれの目標に向かって新たなスタートですね。これからの道程は皆さんを大きく成長させてくれます。

もし途中で自信を失いかけた時には、誰にも必要とされる役割があるという事、心が折れそうになった時には、多くの友達と頑張った事、笑い合った事を思い出してください。そして、「でんでん虫のかなしみを呟いてみてください。」

いつも笑顔で

教授 山内見和(家2-1)

ご卒業おめでとうございませう。楽しかったこと、苦しかったこと、辛かったこと、いろいろなことが、皆さんをとっても美しく、たくましくしてくれましたことと思います。

不況の中での卒業ですが、これからも短大時代の経験をいかし、いつも笑顔で、健康に気をつけてがんばってください。皆さんの今後のご活躍をお祈りします。

生きていく君たちへ

教授 坂口耕史(初2-1)

「卑しいものが勝ちほこりいちばんましなものがいびりぬかれていますこんにち……」と、詩人・白井愛が書いた。そのような社会の中で、かけがえない、一度だけの人生を君たちは生きていく。そのことを思えば、君たちの人生にしあわせ多いことを心から願わずにはおられない。

どんなに苦しいことが重なるっても、夜の闇がどんなに深くても、明けぬ夜はない。勇気をもって生きなさい。

偶を大切に

教授 杉浦左知(初2-1)

小学校や幼稚園の先生は目のほしし偶で教室の隅の子どもを見届けます。心の隅には不安や疑問が宿り、喜びや恋も芽生えます。社会の隅には課題の存在と同時に、可能性もあります。余裕の無い時は物事の処理に精一杯で、隅の

小さなことを忘れがちです。仕事でも趣味でも、小さなことならきつと社会人一年生にも挑戦できるはずですよ。

卒業おめでとう

講師 坂本達彦(史2-1)

新生活のスタートですね。皆さんが学んだ歴史学は史料を客観的に分析し、過去の事実を解明・評価する学問です。新たな環境では、皆さんが戸惑うこと、つまづくこともあると思います。そんな時はパニックにならず、いったん立ち止まり、自分や周囲を客観的に見つめなおすことで解決策が見つかるかもしれません。

この二年間で学んだモノの見方が、これからの人生に役立つことを祈っています。

歴史は歩いて見よ

准教授 小林青樹(史2-1)

大学の北西にある太平山には、たくさんの歴史的文化遺産があります。最近、日本史学科では、今回の卒業生を中心に山の尾根筋を歩き回り、中世に栃木市を支配した皆川氏に関わる山城の実態を調査しました。歴史を理解する一

つの方法として、自分の足で歩き自分の眼で見ることは大事なことですよ。卒業しても、歴史は歩いて見よの精神はぜひ忘れず。卒業おめでとう。

継続は力なり

講師 堀江則之(商2-1)

ご卒業おめでとうございませう。心からお祝い申し上げます。これから進学する者はもちろんですが、就職する者も日々、勉強の連続です。勉強は、毎日少しずつでも継続してやりましょう。将来、皆さんの生きる支えとなります。

またいつか、皆さんとお会いできることを楽しみに贈る言葉といたします。

思いやりと感謝を忘れずに

講師 吉田真理子(商2-1)

ご卒業おめでとうございませう。皆さんはこれから社会に出て、ときには壁に突き当たることがあるでしょう。貴方を支えてくれた人々のありがたさが、あとからきつとわかるはずですよ。いつも謙虚な気持ちで相手の声に耳を傾け、相手を思いやる気持ちと感謝の気持ちを忘れずに持ち続けて下さい。そして、自信を持って一歩を踏み出して下さい。